

## 令和5年度第1回一関市図書館協議会 会議録

- 1 会議名 令和5年度第1回一関市図書館協議会
- 2 開催日時 令和5年10月5日（木）午前10時から午前11時40分まで
- 3 開催場所 一関図書館1階学習室
- 4 出席者
  - (1) 委員 山村淳委員、二階堂美恵委員、都澤喜久子委員、藤野裕委員、金里徹委員、高橋澄夫委員、鈴木宏委員、千葉亜矢子委員、鈴木純香委員、佐々木香委員、菅原美智江委員、千葉正委員、菅原奈々子委員、那須照市委員、千田広子委員、菅原寿委員
  - (2) 事務局 小菅正晴教育長、藤倉忠光一関図書館長、八重樫裕之花泉図書館長、岩渕敏郎大東図書館長、伊藤秀一千厩図書館長、佐藤鉄也東山図書館長、千葉伸室根図書館長、菊地和哉川崎図書館長、梁田潤藤沢図書館長、佐藤俊憲一関図書館副館長兼企画管理係長、西村ミドリ一関図書館副館長兼資料サービス係長、舩屋藍一関図書館主任司書
- 5 議題
  - (1) 令和4年度一関市立図書館事業報告について
  - (2) 一関市立図書館運営方針 令和5年度の具体的な取組について
  - (3) 移動図書館サービス全域化計画（案）について
  - (4) その他
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名
- 8 挨拶
  - (1) 那須照市会長

今回は今年度初めての会議になる。一関図書館長から先ほど、本会議の会議が遅くなった理由の説明があったが、今回の協議会の中で、移動図書館サービス全域化計画が議題となる。事前に配布された資料を皆さんもお読みになったと思う。各地域の図書館運営協議会の方でも事前に協議した議題であるが、今回の協議会でもこの議題に時間をたっぷり取りたいと思う。

どのようなサービス展開になるかわからないことから、この場で意見を出し合って、より良いものになっていければと思う。

## (2) 小菅正晴教育長

市内の新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスへの感染については、だいぶ心配されていたが、新型コロナウイルス感染症は、各小中学校において時折学級閉鎖などがあるものの大きな感染状況にはなっていない。さらに、インフルエンザが流行し始めているという状況もあるが、大きな感染状況にはないところであると思う。これを踏まえると、日常の生活がかなり戻りつつある。また、図書館についても、従来どおりの開館事業が進められるようになって来ていると思う。少し話が逸れるが、感染症に関連してお話をさせていただくと、先日校長会議で感染症のことにに関して、歴史的な話をさせていただいた。

市内で、昭和9年に今の大東の摺沢小学校で腸チフスの感染があり、児童が10名ほど亡くなっている。ちょうど、日本がこれから戦争に突入するという雰囲気はかなり強まってきた時代である。遠足で摺沢から千厩に行き、片倉製糸工場の中で水道から水を飲んでしまい、それで腸チフスに感染し、児童が次の日あたりから腹痛の症状を訴え始め、今度は大人にも感染し、子ども10名、地域の方10名が亡くなるという今では考えられないような感染症に関わる事案があった。

なぜこの話をしたかというのと、私も様々な声を聞いていたので、資料があると思っていたのだが、なかなか見つからず、大東支所長にもどこかにはあるはずなので探してほしいと依頼し探してもらった。最終的には、大東図書館に一件綴があるということがわかった。私はまだ見てはいないが、支所長から資料が存在するという報告を受けて、「やはりそういうことは大事だ」と感じた。摺沢小学校も統合し、現在はないので、統合を繰り返す中で歴史的な事実が記載された資料の保管場所が不明になってしまうということがやはりあると思った。最終的には今の大東図書館に保管されているということがわかり、図書館の機能としてはそういう部分もすごく大事であると改めて感じたところである。

それから、4月に藤沢図書館と川崎中学校が文部科学大臣賞を受賞した。文部科学大臣賞は、令和5年度の子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体に贈られるものであり、県内でも4か所ほど受賞したが、そのうちの2か所は一関市の藤沢図書館と川崎中学校であった。

4月に東京の方で表彰式がありそれぞれ行っていただいたが、とても名誉なことであり、これをお話しする機会がなかったのでここで紹介させていた

だく。

本日は第1回目の協議会であるが、いつものように皆さんからたくさん  
の意見をいただきたい。

## 9 諮問

一関図書館長より会長に対し、図書館法第14条第2項及び一関市図書館条  
例施行規則第16条の規定により、移動図書館サービス全域化計画（案）につ  
いて諮問した。

## 10 審議内容

### (1) 令和4年度一関市立図書館事業報告について

資料に基づき事務局から説明を行った。質疑応答等なし。

### (2) 一関市立図書館運営方針 令和5年度の具体的な取組について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 今回話題になっている一番大切な内容と思うが、資料を読むと、移  
動図書館車、公用車による館外サービスは、一関市立図書館運営方針  
の「図書館利用が困難な方へのサービス」に入れた方がスムーズに繋  
がるのではないかと思う。

事務局 委員のおっしゃるとおり、館内サービスは、図書館に来てくださる  
方のサービスということで、49ページ目の「(3)図書館利用が困難な方  
へのサービス」に入れた方がいいのではないかという考え方もある。

今回、今まで一関、大東、東山地域で行っていたサービスを全地域  
に拡大するという大きな特徴があり、これを重点化するという形で、  
(3)ではなく「(4)全域サービス」として独自に項目を設け取り組んでい  
くという考え方である。(3)に入れてもいいと思うが、今年は、全域化  
計画を特に取り組んでいくということであえて別項目とした。

委員 移動図書館車、公用車などの全域化計画を読み込んでいると、大が  
かりな動きなのだが、結局運転手以外の職員体制は変わらない。

なぜ頑張ってこの計画を進めていこうというのか、というときに、  
この運営方針が絡んでいると思った。そういうことで突き詰めていく  
と、この計画を頑張ってやること目的は、読めば読むほど、図書館  
利用者を増やしたいという部分が強いのかと思う。全域化ということ  
だけが独り歩きしているような感じが、意見交換会や、それからいた  
だいた会議録などからも感じられた。

先ほど話したように、(3)図書館利用が困難な方へのサービスは、全

域化計画を含め個性やニーズに合わせたサービスを柔軟に展開する図書館というところでだと、動きが全部集約されていて、目的がはっきりするのではないかと私は思う。

事務局 委員の気持ちは十分理解しており、図書館へ来ることが難しい方へのサービスの代表格に、全域サービスがあるということである。

なぜこのように全域サービス化に取り組んでいるかということ、やはり、合併前の市町村で運営していた移動図書館車サービスが合併後もそのまま継続されている。同じ市民でも花泉、千厩、室根、藤沢では残念ながら行っていない。同じ市民なのにサービスに違いがあっては公平性に欠けることから、同じ市民の皆様に対し、全域でサービスを提供した方が良いと考えたからである。確かに、これにより図書館利用者が増えることは予想されるが、図書館奉仕の平等性に尽きると考えている。

### (3) 移動図書館サービス全域化計画（案）について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 仕事の都合上、地域に出かけることが多くサロンに来ている方や、市民センターに来ている小さな団体からも「来てほしい」という声もあり、市民センター側からも私たちの方に、そういう機会がないかと相談を受ける。全域に展開するのはいいことだと思う。花泉や室根などそういう声が多かったこともあり、今後、令和9年度までに進められたらいいと思った。

委員 対象者の時間や場所を選定するのは難しいと思うが、バスが来ても利用する方の時間の都合で来られなかったりすると残念に思う。子育ての方は、どのような時間帯だったら使いやすいか、高齢者の方であればどうかなど、また、中高生や20代30代の方々だと平日は学校や仕事などがあると思う。学生、高校生だと土日は部活動だったりする。そういうところを全体的に考えると、時間を選定するのは大変かとは思いますが、そのサービスが広がるというのはいいことである。

委員 地域が広がるのはいいことだと思うが、障がいを持った子ども達からすると、どうしても本を汚してしまったりとか破損してしまったりする心配があるので、なかなか利用しづらいのではないかと考えている。

委員 移動図書館そのものには全然問題ない。多くの人に絵本に親しんで

もらうという様々な機会を設けるとするのは素晴らしいことである。

問題は、どのような方を対象とした取組なのかということで、対象者をもっと明確にすると、もう少し効果的ではないかと思う。年代によってみんな生活スタイルが違ってくる。あとは曜日などでの違いもある。そのような中で、高齢者であれば高齢者の集まりやすい時間帯をリサーチするなど対象者に合わせた取組となるよう検討をお願いしたい。例えば、学生、生徒であれば長期の休み期間に重点的に回ると効果が上がるのではないか。ただ、自動車の運行であり、ガソリンも高騰しているので、なかなか厳しい環境なのかという感じはするが、的を絞って上手に運営していく方法がいいのではないかと思う。

委員 今回、対象者が児童生徒もということで、とてもいいと思っている。子ども達は普段、昼休みになると体育館に行き遊ぶことが多かったりするので、この日に移動図書館車が来てくれるとなれば、良い本が揃っていてその中から選べると、すごく子ども達も興味深く手に取るのではないかと思う。期待している。

委員 移動図書館車のサービスが全域になるというのは素晴らしいと思った。

住民が高齢化し、これまでは街に買い物に来ていた方も、高齢になったので免許を返納してしまい、買い物に来られないという現状である。今は買い物に来ることができても、5年先、10年先になったら買い物に来られない年代になる。移動図書館車のサービスは、高齢者にはとても優しいサービスだと思う。しかし、わざわざその高齢者のためにというよりは、その高齢者の集まるサロンのところに押しかけていく。現在、民生委員がサロンと買い物難民の高齢者を組み合わせ、一緒に買い物をしてもらうというサービスを展開しているので、そこにこの図書館サービスを一緒に付けてみると、なおさら楽しめるのではないかと思う。

また、お子様に対しても、各種の健診の会場に行き、本を借りてもらう。小さい子どもを連れて出かけるというのはとても大変なことなので、そういった検診会場に移動図書館車が来れば、帰りに借りてもらうということもできると思う。

それから、パブリックコメントにもあったが、イベントやショッピングセンターというのは非常にいい案だと思う。青森の図書館に見学

に行ったとき、商業施設の中にある図書館はものすごい数の学生が利用していた。例えば、そういった学生や、子ども達、買い物のときの付添いで来た家族に向けても、ショッピングセンターなど人の集まるところに移動図書館車を走らせるというのはいいかと思う。こういう案を今から取り組んでいけば、移動図書館車の存在を普段から認識し利用する習慣がつくようになる。そのような習慣が身に付けば、例えば、高齢者が免許を返納した後も近くに来た移動図書館車を利用していただけるようになり、免許返納後も楽しめる。

委員 花泉地域では小学校、中学校が統合になり、現在図書館の近くに学校がある。そのため、図書館からの働き掛けが重要になってくると思う。ただ問題は、全然図書館に来たことがないお年寄りが沢山いる。地域も広いことから、移動図書館車がどの場所に来ていただくのが一番いいのかということが、やはり運営協議会の中でも話題になる。移動図書館車が来ても、利用者に来ていただけないと全く意味がない。その辺をどのように考慮し、場所を選定したら一番いいのかというのは本当に分からないところである。

先日開催された図書館まつりのときにも、図書館が建てて10年も経つのに、図書館に初めて来たという方もいらっしゃるの、そのような方々も図書館の本を借りられるという形での移動図書館車はすごくいいと思うが、場所と時間がすごく重要になると思っている。その辺をどのようにこれから取り組んでいけばいいか、協力していけばいいかということは、大きな悩みである。

委員 一関図書館運営協議会の中では、サービスが広がることはとてもいいことである。あとは、お知らせをしないと人に集まってもらえないので、周知が大事という話があった。

委員 大東図書館運営協議会には自分は参加できなかったことから、議事録から意見をまとめた。

先ほどお話しした、運営方針に関わる部分については、そちらの方が図書館としてまとめやすいのではないかと思ったので、申し上げた。

移動図書館車のことについては4つ意見がある。

1つは多分、大きな図書館の職員は、今後様々な工夫をしていかなければならないところだと思うが、今、委員たちからは好意的な話が出たが、実を言えば市民の側の関心は薄い。意見交換会を10会場で

やったとしても、平均すると1会場当たりの出席者は10人に満たない。さらに、そこに参加した人たちの中には、運営協議会の委員もいる。委員以外の市民はどれくらいいるかという、さらに少なくなるという実態がある。それから、アンケートを区長に取ったようだが、これを市民の声としてそのまま取ってもいいのかも知れないが、ただ、藤沢の会議録には46人中16人のみの回答であった。やはりそこでも関心の薄さがある。この計画が駄目というのではなく、市民の関心が薄く、少ない意見を基に作られた計画をこのままで実施するのであればこのことを念頭に置かなければならないと思う。

2つ目として、各地域でも意見が出ていたが、実際に動き出すとなれば職員の業務負担が増えることがある。先ほど申し上げたように、運転手以外は今までの職員体制であり、移動図書館車に乗る人員を増やすわけではない。それから、移動図書館車が既に入っているところと、これから入る地域の図書館職員の方でも、業務の負担に違いが結構あると思う、そこも解決していく問題かと考えている。

3つ目として、利用者を増やすという部分に当たって、移動図書館車から離れるかもしれないが、市職員の図書館利用に関しての関心の薄さがある。利用者カードを作っていない市職員が結構いるのではないか。また、図書館に足を運ぶ人たちも少ないのではないかという部分がある。図書館の役割としても、市の姿勢と密接に関わっているが、その辺りも今後考えていかなければならない。

4つ目として、先ほどもあったように周知の仕方について、ここに移動図書館車が来る、公用車が来るという予定の周知だけではなく、今ここに来ているというのも含めて、周知の仕方という部分の課題があると思う。

これはお願いだが、今私が考えられる部分で2つ目に話した職員体制と、各館の職員の業務負担の差に関して、具体的に館長同士では話し合っているかも知れないが、全職員で、いつどこで何をどうするというようなワークフローを各館で組み立ててみるのはどうか。そうすれば、実際に今日は図書館に残る人がすごく少ない、1人しかいないなど、そういうことも現実に見えてくると、図書館職員の業務負担の差に関しては、少し解消していくと思う。そういう方法はいかがか。

体調管理についても、今後とも十分に気をつけていただきたい。

委員 図書館サービスを拡充するということはいいことであり、特に、計画書的には大変見栄えもするが、新たな事業をやるにはやはり覚悟が必要と思う。職員体制や予算、これらをしっかり考えた上でやらなければならない。悪い言い方をすると、公平という格好つけの一言で済まされてしまう。つまりは、負担がかかってくる。今までやってきた、一関なり東山なり大東の職員に負担がかなりかかることを心配する声が出た。しっかりとした予算を確保して、職員体制を充実させるという覚悟がないとこれは大変と思う。

委員 皆さんが話したこととほぼ同じようなことだが、やはり人・物・金で考えて、これが持続可能なのかどうか、将来的に渡ってこの事業がどうなっていくのかという心配がある。一関市はご存知のとおり、人口が急激に減っているという状況を市長からもお聞きしており、その財源がどうなるのかという心配もある。そういった中での事業ということで少し心配である。

個人的に言えば、多分ないとは思いますが、例えば、広がったことによって、学校に行く回数が減るといことがあれば困るといような感じを受ける。

委員 室根地域では9月8日に図書館運営協議会を開催した。そこで委員の皆さんから様々なお話をいただいた。その半分が全域サービスの件だったのだが、そのほかに、利用者カードの作り方がわからないという方が沢山いるので、その辺を今年は重点的に取り組みましようという話が出た。また、スマートフォンでのデジタル利用券普及について、もう少し皆さんに呼びかけていきたいと思いますということの2点が話題に出た。

全域サービスについては公用車の配本、それから配本所と、移動図書館車の3点について意見が出た。配本所について、今、市民センターの一部でやっているが、市民センターは図書館に近いので、市民センターで借りるより図書館に行って借りた方がいいという話も出た。また、過去にどのようなところに配本所を置いていたかというところ、床屋や、企業と連携して工場に配本をしていたという経緯をお聞きし、工場のような人がたくさんいるところと連携しながらの配本がいいのかと個人的に思った。管理者がいないと配本所というのは難しいと思う。工場などに設置していただければ、仕事をしている方々が利用



できるのではないかと思っている。また、公用車での地域への配本については、小さなイベントやサロンなどにも行けて、非常にありがたいサービスという意見が出た。移動図書館車については大きな車なので、例えば、室根だと地域の集会所があるところだと道が狭いなど、なかなか大きな車は入っていけないという意見が出た。確かに大きさと重量があり、ほとんどの集会所には入っていけず、入れそうな場所というところ、例えば、旧室根東小学校のような大きなところにしかない。また、平日に巡回すると、限られた時間で何人の人たちが利用できるのか。そこまで行く手段もなかなか難しく、普段仕事をしている人たちはまず行かない、そういう意見も出た。できれば移動図書館車は、何かイベントがあるときに、スケジュール調整をして合わせて来ていただいた方が、利用者が来やすく、移動図書館車の利用も増えるのではないかという意見が出た。

個人的に言えば、移動図書館というのは、地域の人たちにとっては非常にいいサービスだと思う。35年前、葛巻の分校に勤務したこともあるが、その当時もやはり移動図書館車があり、学校に回ってくると子ども達はすごく喜んで利用していた。そのまま図書館車は次の地域を回ったが、1軒1軒というわけではないが、週に2回来る移動販売車とセットで巡回していた。地域の人たちも非常に喜んでいたし、そういうのが原点なのかと思う。

委員 移動図書館車に関しては、高齢化が進む上でニーズはあると思うので、是非川崎にも走らせてほしい。ただ、先ほどから様々なご意見が出ているが、これを運営維持するというのは大変なことと思う。しかし、これは新しく始めるわけではなく全域化なので、既に東山、大東において経験とノウハウの蓄積もあり、その延長線であると考えれば、私は何とかなると考えた。1つ気になるのは、返却についてである。利用者が子どもや年配の方となると、借りた本をしっかりと自分で管理して、次に返すということが出来るのか少し心配なところもある。返却の意識をしっかりと持っていただくということを徹底すれば、更によいのかと思う。

委員 皆さん意見を出されたように、集まる場所と時間について、今ある車なので、学校など大きな施設のイベントのときに来ていただくというのは非常にありがたいと思うが、藤沢では計画の表を見ると、令和

8年度にしか実際に稼働されない。藤沢では様々頑張って取組をしており、今年度から子ども食堂や、自治会サロンに出向いて行ってもらっている。これらには大きい車ではないので行きやすいと思う。結構そういうところからの需要が多いとのことである。子ども食堂も実際、ご飯を作っている間の子どもの待ち時間や、自治会サロンもみんなが集まってお茶を飲むときなどに本があって、それで話題が膨らむという方が、実際図書館だけというよりも人が集まるので、そこにニーズのある本を持って行って、おはなし会をしていただく方が交流の場としていいのではないかと思う。また、移動図書館車で来ていただくのと、公用車で来ていただくのと両方残していただけるか、それとも移動図書館車だけになってしまうのか、そのあたりはうまくニーズと利用者の傾向を読み取っていただいて、対応していただければもっと普及されると思う。

賞をいただくほど、藤沢図書館は様々な企画展を行っており、司書は頑張って事業を行っている。今回は10月の3連休にイベントがたくさんあり、自分も周りに声をかけたものの、なかなか図書館だけに来ていただくということが難しい。図書支援員をやっているため仕事柄図書館に行くので分かるが、保護者は忙しい。自分も仕事だから行けるが、実際子どもの送迎などで時間をつくるのが難しいのが現状である。

子ども食堂や自治会サロンなどのイベントに合わせて移動図書館車が来る旨のお知らせのチラシを広報誌に挟んで行くと周知になる。今回、図書館で夏休みスタンプラリーを実施したが、夏休みでも小学校の子どもたちはなかなか来なかった。おはなし会があるということで初めて参加してみたら、幼児向けのものだった。その内容もただのおはなし会としか書いていなかった。夏休みなら怖い話を行う、このような行事を行う、このような本を持っていくなどの周知を行い、利用者からリクエストを聞いてもらえば一層いいのではないかと思った。

心配なのは、職員の負担が大きくなるかということである。その辺は続けていくに当たり、やはりきちんと考えなければならない。

会 長 皆さんからの意見は、広域化についてはおおむね実施の方向を歓迎するということだが、ただやはり懸念材料として、職員体制や、どこ

に配本したらいいのか、また、移動図書館車の対象者の選定に伴い曜日や時間の課題というものはある。これからどんどん検討を重ねていくことだと思うが、その辺を付記して答申案を作りたいと思うがいかがか。

事務局 これまでいただいたご意見に対し、事務局で答弁が必要なものについて答弁させていただきたい。

各運営協議会でもご意見をいただき、各図書館でも配本所の場所や移動図書館の位置などを3年くらいに渡り協議してきた経過がある。ご指摘の「周知が足りない」ということで、実績としては説明会への参加者は85名であり、周知の面で反省している。

移動図書館車の訪問に関する今後の周知としては、紙面での周知はもちろんのこと、実際本日ここに来ている、というような周知、以前であれば移動図書館車が到着した際音楽を鳴らした地域もあったが時代の流れによって好まれなくなっており、音を出せないという地域もある。

新規事業を行う上では、人、財源、ものであるとか、図書館車の更新も必要になってくるので、それを前提として計画しなければならないが、ご説明したとおり、残念ながら職員の配置は現在のままである。今後、考えられるのは再配置や配分という形があるので、市の予算当局と協議を行いながら行う。そういったことを答申でいただけたらと思う。

全域サービスについては公用車の配本、移動図書館車の配本、配本所の設置の3つのサービスがあり、委員から対象者に合わせたサービスをというご意見をいただいた。それぞれメリット、デメリットがある。配本所の配置箇所や移動図書館の停車場所というのは、令和9年度目標に向け試行錯誤を繰り返しながら、職員体制もこれに合った形での体制を検討しながら3月までに作っていきたいと思う。市職員の図書館利用への関心の件については、図書館としても考えており、地域館の館長にも頑張ってもらっていただき、図書館利用を市職員にも勧める働きかけを行っている。

会長 せっかくいいサービスということで、おおむね皆さんから良好に受け止めていただいているので、ぜひ実施してほしい方向で答申したいと思うがよろしいか。

一 同 異議なしの声あり。

11 答申

一関市図書館協議会長より一関図書館長に対し諮問に対する答申があった。その内容は、計画案は審議の結果妥当であると認め、下記の意見、要望について検討し、方針に基づく取組の実施に活かすよう求めるものであった。

- 1 図書館利用がより進むような施策の立案、展開に努めること
- 2 周知については十分に行うこと
- 3 ステーションなどの配置にあたっては、利用者のニーズにあった場所や時間の選定に加え、イベント開催などを含めて総合的に配慮すること
- 4 図書館職員の負担にならないような人員配置、移動図書館車などの設備やそれに係る必要な予算措置について努めること

12 担当課 一関図書館